

平成二十九年四月、五月の收穫（乾）

土屋 博

一「賴山陽及其時代」森田思軒遺著

（民友社、明治三十一年刊、定價金壹圓）五八九頁、古書價格三百圓也。貳拾文豪シリーズの第拾壹卷。徳富蘇峰、山路愛山の校定。緒言にて蘇峰曰く、「余は愛山君と相議し、君の賴山陽に關する遺文を校定し、題して『賴山陽及其時代』と云ひ、以て十二文豪の中に列せしむ。若し君にして在らば、必ず多少添刪する所ありしならむ」と。賴山陽を學ぶに基礎的文獻の一つと覺ゆ。

二「東西偉人言行錄」千頭清臣、川田正澂、大町桂月共編

（博文館、大正二年刊）四八八頁、古書價格百圓也。奥付欠及び寫眞一葉欠。

「一 明治天皇と乃木大將」、「二 アナキシメネスの頓オランプサカス市の滅亡を救ふ」（アレキサンダー大王小亞細亞の一都市を全滅せんとしたる折り、歴史家アナキシメネスの頓智に一杯食はされたる話。）より「四一六 李鴻章大久保利通の膽を試む」（會議中の發砲音に動ずること無し。）まで。知的關心の視野は東西に廣し。

三「大將乃木」横山健堂著

（敬文館、大正參年刊、定價金壹圓廿錢）六六〇頁、古書價格三百圓也。天金。

序言に曰く、「大將乃木の切腹は、霹靂の如く、一世を警醒す。世道人心の上に於て、千百年來、始めて見るの大事たるを失はず。吾輩、屢しばしば、人物論に筆を執る。即ち、此の如き大人物こそ傳せずんばある可らず。本書を公にする所以也」と。

目次は、一 少時に受けたる精神教育、二 切腹論と大將乃木、三 乃木と東郷、四大將乃木と古忠臣、五 武士道に於ける大將乃木的位置如何、六 軍旗と大將乃木、七公伊藤と大將乃木、八 古殉死者と大將乃木、九 大將乃木と愛讀書、十 大將乃木の履歷、十一 大將乃木の人格の三變遷、十二 臺灣に於ける總督乃木、十三 乃木化したる夫人静子、十四 憂國慨世の精神と大將乃木の死及び遺言書、十五 故郷に於ける大將乃木、十六 軍人に賜はりたる勅諭と大將乃木、十七 二希と三典、十八 夫妻殉死の雄大壯烈なる光景、十九 崇高なる國民葬、二十 養子嚴禁と乃木家斷絶、廿一 大將乃木の祖先、廿二 旅順攻囲軍に於ける大將乃木、廿三 乃木式、廿四 趣味の人大將乃木、廿五 劔を佩おびたるペスタロッチ、廿六 明治天皇と大將乃木、廿七 乃木邸と乃木神社、廿八 兒童及び青年の見たる大將乃木。

乃木の生涯を學ぶは、明治人の氣質を知ることなり。

四「與謝野晶子詩集」

（新潮社、大正四年刊、定價金六拾錢）古書價格二百圓也。函入。

かがみに「渡鮮旅中の慰みの爲に是れを求む 大正四年秋」と墨書せらる。冒頭の歌「道を云はず後を思はず名を問はずここに戀ひ戀ふ君と我とは」より、末尾の歌「大いなる鬱金うこんのひと葉日に透きて散る時われも舞はまほしけれ」まで收録せらる。

五「日本青年鑑」巨理章三郎著

（金港堂、大正六年刊、定價金壹圓參拾錢）五二四頁、古書價格二千五百圓也。

著者は東京高等師範學校教授。本書は、「江戸時代初期より明治維新に至る迄の間に於いて、我が國今日の隆運を開くに與つて力のありし幾多國士の中より、徳川光圀、淺見綱齋、本居宣長、賴山陽、藤田東湖、吉田松陰、橋本左内、西郷南洲、勝海舟、伊藤博文の十人を選び、其の少壯期を主として傳を立てたるもの」なり。

この書の存在自体、大いに知らしむべし。掘出物。

六「警句の泉」

（修敎社書院、大正十五年刊、定價金壹圓七拾錢）五九六頁、古書價格五百圓也。函入。
序によれば、本書は漱石、雪嶺、獨歩、桂月、白村、浪六等の明治大正に跨る文豪の千古不滅の名文中より洒脫、飄逸にして然も肺腑を抉るが如き警句を抜き、一誦三嘆、絶唱に價する章句を網羅したる由。昔はかくなる書籍、愛蔵せられたる如くに見ゆ。

七「その頃を語る」朝日新聞政治部編

（朝日新聞社、昭和三年刊、定價壹圓五十錢）四四四頁、古書價格三百圓也。函入。
緒方竹虎のはしがきより、「思ふに戊辰より戊辰に至る六十年、維新創業の人は年と共に謝し去り、今にしてその實歴を聞かずんば、長へにその機會を失はんとしてみたのである」、「語る人七十六人、もつて自舒的明治大正文化史を成すことを得」と。澁澤榮一は「ナポレオン三世に謁す」を語る。

八「西郷南洲先生傳」南洲神社五十年祭奉賛會

（改造社、昭和四年普及版刊、定價壹圓五拾錢）二五三頁、初版は昭和二年、古書價格五百圓也。天金。傳記は維新史料編纂官勝田孫彌氏の擔當。全集の執筆者なれば適任と覺ゆ。

九「作者別萬葉全集」土岐善麿編著

（改造文庫、昭和六年刊、定價六十錢）六一三頁、古書價格二百圓也。
序より、萬葉集二十卷、收むるところ、長歌二六二首、短歌四一七三首、旋頭歌六一首、これに數篇の詩文を添へて、この日本最古の歌集は、世界文藝の大きな驚異なり、と。
目次は上篇短歌、中篇長歌、下篇旋頭歌並詩文、附作者索引より成る。

一〇「神皇正統記述義」山田孝雄著

（民友社、昭和七年刊、定價六圓）八〇九頁、古書價格五百圓也。函入。背破損。
自序によれば、「昭和四年秋蘇峰先生その祕庫に存する古寫の神皇正統記を示してこれが衍義をものせよと勧めらる」と。

（平成二十九年七月十一日受附）